

オンリーワンの木工マガジン

ドゥーパ! 特別編集
GARKEN MOOK

手作り週末木工

2015~2016

クギなしで作れるぞ!
椅子&テーブル作りの
接ぎ手攻略法

ハイアマチュア向け
木工ツール研究

ビスケットジョイナー / ホール盤
西洋カンナ / 自動カンナ

実践!一枚板のテーブルを作る
鉄&木材の家具作り
夢のマイ工房を実現させたふたつの物語
木工ライフのネット活用術

私の手作りジグ 公開!!

佐野さんの簡単アラレジグ
栗原さんの四方転びのための丸ホソ加工ジグ
近藤さんの額縁留め接ぎジグ etc.

自分で作ろう
マイ作業台!



Contents

本誌に記載されている記事およびデータは、取材時のものです。
本誌をもとに制作される場合は、安全に留意の上、個人の責任で行なってください。
*本誌で紹介する商品の価格は、特に明記している場合を除き、すべて税抜き価格です。

003 第17回ドゥーパ！DIY大賞 作品大募集

006 [巻頭スペシャルリポート] 1枚の合板から ~全国合板1枚作品コンペ入賞作品集~

012 デザイン家具を作るための 接ぎ手攻略法

Part1 家具作りのための接ぎ手テクニック

- 014 スタイリッシュチェアを作る4種類の接ぎ手
- 024 シンプルなテーブルを作る4種類の接ぎ手

Part2 私の自作ジグ大公開!

- 034 諸井路子さんのおかもちを作る縦挽き&直角ジグ
- 038 佐野充弘さんのテンプレートと簡易ドリマーテーブルのアラレジグ
- 042 栗原雄一さんの四方転び丸ホブ加工ジグ
- 046 朝山 隆さんのカーブ作り用成形型プレスジグ
- 048 近藤佐免司さんの額縁留め接ぎジグ
- 052 古河 勝さんのアラレジグ

057 無垢の一枚板のテーブル作り徹底ガイド

【準備編】一枚板を知ろう

樹種をチェックする 058 / サイズをチェックする・乾燥状態をチェックする 060 /
割れ、節をチェックする・一枚板を買うウェブショップをチェックする 061

【製作編】一枚板のテーブルを作る

Step1 一枚板を置く 063 / Step2 穴をバテで埋める 064 / Step3 チギリを作る 065 / Step4 チギリを埋める 066 /
Step5 脚を作る 068 / Step6 反り止めを加工する・Step7 塗装する 070 / Step8 組み立てる 071

【おまけ編】一枚板の端材で小物を作る 072

073 木材プラスアイアン素材でモダンな家具を作る

File01 ハイブリッドチェア 074 / File02 アンティーク風シェルフ 080 / File03 宙に浮いたような棚 088

090 夢のマイ工房を実現させたふたつの物語

広々タイプ…電気知識をフル活用、集じんも、工具も使いやすくて最適化！090
狭小タイプ…壁、天井を収納に利用し、狭小でも機能的な工房を実現！096

101 趣味木工の腕がワンランクあがるSPL工具

ビスケットジョイナー 102 / 卓上ボール盤 106
西洋カンナ 108 / 自動カンナ盤 112

[巻末リポート]

作業台を作る 116 / 木工ライフを楽しむためのネット活用 122

[いいとこ見つけ隊]

竹中大工道具館 100 / レンタル工房「DIY STUDIO」 115

PART
2

これは便利！私の自作ジグ大公開

正確な材の加工で作品づくりの大幅なステップアップにつながる、注目の自作ジグをピックアップ。

取材：木造編集部 写真イラスト：杉田豊久 写真：R.A.L.

朝山隆さんの
成形型プレスジグ

諸井路子さんの
縦挽き&直角ジグ

近藤佐兔司さんの
額縁留め抜きジグ

佐野充弘さんの
テンプレートと
簡易トリマーテーブルの
アフレジグ

栗原雄一さんの
四方転び丸ホソ加工ジグ

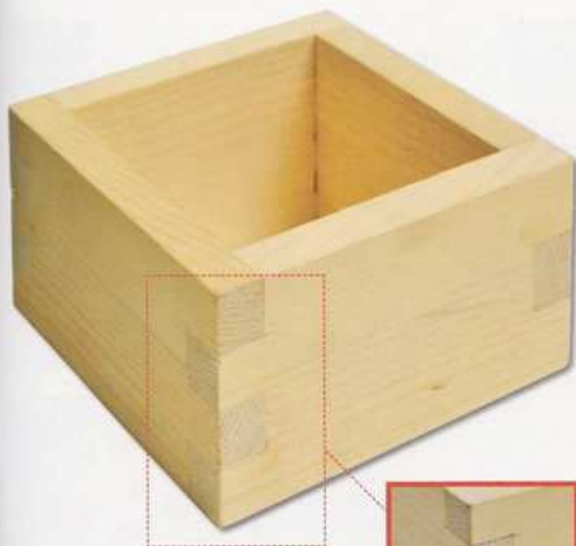
古河勝さんの
アフレジグ



古河 勝さんの

アラレジグ

アサリなしのノコギリを使うこのジグがあれば、市販の枘のように、すき間やずれのないきれいなアラレ接ぎ加工ができる！



アラレジグを使った 作品例

High-level 〔第1特集〕
Self-made デザイン家具を
作るための
JIC 探ぎ手攻略法



均等な5枚組み手接ぎのアラレ
で組まれた作品例



こで紹介しているのは、アマチュア木工家の古河勝さんが自作したアサリなしのノコギリを使うアラレジグ。古河さんが参加している千葉県の上総木工交流会で、木工研究家の杉田豊久さんが、アリ接ぎ加工のセミナーで披露した、「ノコギリの刃の厚さを分ずらして加工する」というテクニクをヒントにしたもので、きれいなアラレ組みが確実に加工できる。

このジグの特徴はアサリのないノコギリを使い、使うノコギリと同じ厚さのノコギリから切り出した金属板を、材の位置決めをするためのジグとして使うということ。作例では、アサリのない刃の厚さが0・6mmのノコギリを使用し、同じ厚さのノコギリからグラインダーで切り出した金属板を、材の位置決めや仮留めに使用している。材を固

定して加工するので、1度削っけしてしまえば、アラレを切るたびに寸法を測定することなく、スムーズかつ正確にアラレ接ぎが加工できてしまう。後述の手順の解説では、ビギナーは、接ぎ手の間隔を均等に取ったほうがわかりやすいと説明しているが、実はここで紹介している5枚組み接ぎを例にすれば、1度目の2カ所の切り込みでアラレの位置が決まり、2度目の2カ所の切り込みで自動的にアラレの幅が決まるので、墨線を引く間隔は不均等でもかまわない。使いこなせば自由にアラレの位置を決めることもできる、正確さと自由度を兼ね備えたジグだ。

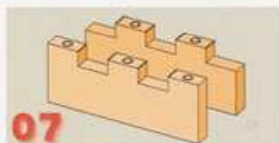
古河 勝さん

木工愛好家(65歳)。天気が良ければ日曜大工、雨が降ったらサンダーボックスと称し、コンピューターソフトから、ウッドデッキまでDIYしてしまう。リタイアして以来、千葉県市原市の自宅の庭に自作した軒下工房を舞台に、様々な木工を楽しんでいる。木工趣味に没頭する中で、もともと理系の古河さんが取り組んでいるのが、今回紹介する自作ジグ。古河さんのホームページはインターネット上で「あとろえむとえむ」で検索すると閲覧できる。

アラレ加工 成功のポイント

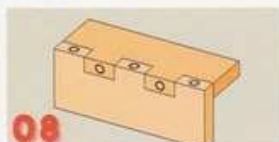
06

全ての墨線に切り込みが入る



07

×印部を糸ノコで落とし、ノミで仕上げる



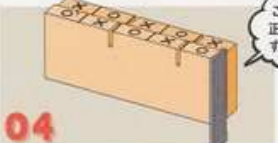
08

組み合わせると接手がぴったりかみ合う。アラレ接ぎの完成。



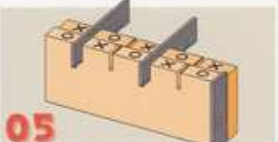
03

墨線の○印側にノコ刃が入らないように切り込みを入れる。ひとつおきに切り込むことになる。下写真のようにバタバタマニュアルがあると切り込み位置を間違えない



04

次にノコ刃を手前の材に挟む。こうすると、後割(切り込み)がノコ刃1枚分ずれる。これで反対側の墨線に切り込みを入れる準備ができる



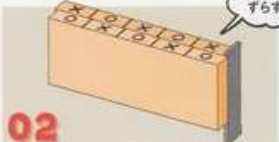
05

墨線の○印側にノコ刃が入らないように切り込みを入れる。



01

2材を重ね、墨線を入れる。奇数分割がいい。分割したら○×記号を入れる。○は残し、×は不要部を表す。



02

図のように使用するノコ刃を片方の材に挟む。互いの墨線はノコ刃の厚み分ずれることになる。

古河さんのアラレジグを構成するジグと道具



刃の厚み分ずらすために材を数枚ジグ。右端の立ち上がりはゴム磁石が張ってある



他うノコギリと同じ厚さのノコギリから切り出した金属板。厚さ0.6mm



加工中の2枚重ねた材の切り込みに差し込んで、材がずれないようにする金属板。厚さ0.6mm



2枚の材をずらして固定するための金属板。挟うノコギリの角と同じ厚さのノコギリから切り出した金属板を十字状に3枚重ねて、線間接着剤で固定



ノコギリはアヤリのないゼットソーのハイブソーフラット225替え刃をつけたもの。上の板は厚さ2mm程度の真っすぐな板にネオジム磁石を埋め込み、厚さ3mmの板を重ねて補強。滑り止めテープを貼ったスリッパ



プラスチック板を2枚の板で挟み、線ネジで板を動かして、水平位置の寸法を測ったり、量つてできる水平定規



バタバタマニュアル
ノコギリの刃をガイドするゴム磁石

ノコギリの入る溝

切る材の上面を水平に押さえる板。前後に可動する

材を垂直に固定する部分

ジグを作業台に固定する部分

アラレジグの使い方

5枚組み接ぎの加工手順

STEP

1

ジグに取り付ける前の墨つけ、
2枚の板の位置決め



04
木口厚さプラス1mm程度の幅に寸法を写したケビキで材の裏側に墨を引く



01
ここで使用する材を立てる箱と使用するノコギリと同じ厚さの金属板



05
外側は組み接ぎが完成したときケガキ線が残るのを防ぐため、裏側と同じ位置に鉛筆で墨線を引く



01
材の木口を5分割する墨線を引き、交互に○×の印を入れておく。ピギナーのうちは墨線は均等に引くとわかりやすい



06
2枚の材はノコギリの厚み分ずらす必要があるため、切るノコギリと同じ厚さのノコギリを立てた写真のようなジグに、2枚の材の片方の木端面を押しつけて材をずらす



02
組み上がったとき外側になる面に印をつけておく。写真では青いテープを貼っている



07
ジグ側(写真手前)の板が刃の厚さ分だけ左にずれている状態を動かないように保持して、ジグに取り付ける



03
ケビキを材の木口に当てて、材の厚みより気持ち広く、ケガキ幅を決める

STEP
2

初めの2カ所の切り込み



04
ストッパーを付けたノコギリをゴム磁石に沿わせて切り込む。ストッパーが材に達すると、滑って所定の深さより切れない



切り込みに使用する
アサリなしノコギリと、
自作水平定規

切り込みに差し
込んで材を固
定する金属板

アレンジで材を垂直
に固定して作業する



05
今切った溝に使用するノコギリと同じ厚さの金属片を差し込み、2枚の材がずれないようにする



01
まず写真の2カ所に切り込みを入れる作業をする



06
墨線をずらして2本目の墨線にジグを合わせる



02
2枚をまとめてクランプを使い、ジグに固定した状態で作業者側から見る



07
1本目の切り込みと同じように2本目の溝を切る。写真01のよう
に2枚の材に2本の溝が切れる



自作水平定規

03
水平定規で切り
込み深さを決め
て、ノコギリにス
トッパーを取り付
ける

STEP 3

3カ所目、
4カ所目の切り込み



03
このようにジグ備（写真手前）の板が、ノコ刃の厚さ分右にずれた状態で固定する



04
先の溝切りと同様に材を2枚まとめてクラップで固定し、残った2本の溝を切り込む



01
2枚の材を反対側にずらして残り2本の溝を切り、合計4本の溝を切る作業を行なう



02
先の作業と逆に、今度はジグ備の板がもう一枚の板よりノコギリ1枚分の厚さ逆にする。ここでは切るノコギリと同じ厚さのノコギリから切り抜いた金属板を3枚互い違いに張りかさね、瞬間接着剤で固定した自作ジグを柄杓に切った溝に差し込んでずらしながらこのジグを使う。材の寸法誤差にかかわらず正確な切り込み位置が得られる

古河 勝さんの
アレンジ
High-level
Self-made
JIC
【第1特集】
デザイン家具を
作るための
接ぎ手攻略法



04
糸ノコで切り残した部分はノミで欠き取る



02
凸部と凸部の間は写真のように糸ノコを使って、切り抜く



01
切り込みの入った材は写真のように、ジグに横付けして、×印部分を切り取る



05
凹凸に合わせて2枚の材を組み合わせる



03
3枚の凸部のある板の糸ノコを使った切り抜きが終わったところ



完成!

接ぎ手の、突き出した部分をカンナやサンダーで平らに研削すれば、組み接ぎのできあがり

STEP 4

溝部分の切り欠きと
仕上げ